



みみらく ぷらす



地域支援センター「みみらんど ぷくしま」

第2号 H30. 10. 22

「みみらんど ぷくしま」から、耳ときこえに関する情報をお届けします。第2号は「聴覚障害児のことば」についてです。

聴こえにくい子どものことば



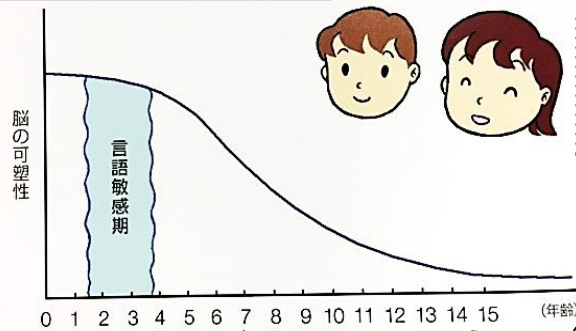
*聴覚から得られる情報量が質的・量的にも少なく、自然学習が損なわれてしまうことにより・・・

◇ことばの発達

- 語彙数が少ない。
- 助詞がうまく使えない。
- 抽象的なことばの理解が難しい。
- 擬音語・擬態語の理解が難しい。

- 3歳児の正常聴力児・・・約700語
- 誕生時に難聴が発見され、対応された3歳児・・・約500語
- 6ヶ月に難聴が発見され、対応された3歳児・・・約300語
- 2歳児に難聴が発見され、対応された3歳児・・・約 **25**語

(聴覚系の脳の発達との関連)



- 言語獲得の時期は、脳の成熟と関係して**2歳付近**。
- 少なくとも**2歳前後**には、療育ないし言語指導を始めることが大切。

最も可塑性に富んでいる。

就学期になると急速に減少する。

思春期を過ぎるとほとんど失われる。

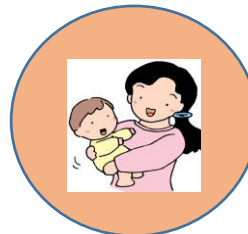
福島校では、0歳からの教育相談を行っています。ぜひ、ご活用ください。



*日本語を身に付けるためには、脳の可塑性が豊かなうちに教育や療育を始めることが重要です。

◇子どものことばを育てるかかわりの10ヶ条

1. 前にまわり
2. 目の高さで
3. 注意をひきつけてから
4. 顔の表情や口元が見えるように
5. 少し大きめの声で
6. はっきりと
7. しぜんな速さで
8. ジェスチャーも添えて
9. 繰り返して
10. 伝わったかどうかを確認しながら



★ 「きこえにくい子のためのサポートブック」／福島県立聴覚支援学校福島校発行 より
次号は「聴覚障がい児の保護者支援」についてお届けします。2月頃発行予定です。

